



変わろう・変えよう・産業と暮らし
第3期高知県産業振興計画 **ver. 3**

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》(案)
幡多地域抜粋版

平成30年2月

高 知 県

7 幡多地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

高知県の西南部に位置する当地域では、温暖な気候や黒潮の恵などの自然環境を活かしながら、第一次産業を中心とした産業づくりを展開しています。また、近年では、地元の農林水産物や自然素材を活用した加工品づくりのほか、四万十川・足摺岬など全国に誇れる観光資源を活かした体験型観光や、バイオマス発電ほか自然エネルギー関連の施設の誘致など、新たな産業振興の取組が見られるようになりました。

平成27年の国勢調査では、幡多地域全体の人口は、86,884人。この5年間で7,518人減少(△8.0%)しており、人口減少に歯止めが掛からず、大変厳しい状況が続いています。

このような人口減少は、労働力の減少や地域経済の縮小を引き起こし、さらに地域の経済の萎みが、社会サービスなどの様々な社会基盤の弱体化を招き、若者の流出など更なる人口減少を引き起こすといった悪循環に陥っており、地域の衰退に拍車をかけています。

こうした負の連鎖(負のスパイラル)を断ち切り、人口減少に歯止めをかけるためには、若者が安心して生活していくための雇用の場づくりや、安定的な所得の確保が不可欠になっています。

このため、地域の基幹産業である第一次産業の生産基盤づくりをはじめ、地域資源を活かした特産品の開発や磨き上げ、地域が一体となった着地型観光の商品造成など、地域経済の活性化に向けた取組を進めています。

産業分野別にみますと、まず、農業分野では、野菜、花卉、果樹、水稻などが栽培されていますが、国内外の産地間競争の激化や価格の低迷、生産コストの上昇などにより、産地の維持が課題となっています。そのため、農産物の高付加価値化や環境制御技術の普及による生産性の向上など生産力の強化を図るとともに、集落営農の推進と法人組織の育成などによる組織強化や、地域内での加工品づくりを目指した栗・芋・ユズ・直七・ブシュカンなどの栽培にも取り組んでいます。また、畜産関係では、四万十牛の生産拡大や、「土佐極鶏あしずりキング」のブランド化に取り組んでいます。

林業分野では、森林の小規模所有者の集約化に時間等を要することや、林道・作業道の開設の遅れ、長引く木材価格の低迷などにより、依然として厳しい状況が続いています。こうした状況のもと、作業システムの改善などによる木材生産の効率化や、ヒノキなどの地域内木材のブランド化など、森林資源の付加価値を高める取組が進められています。また、土佐備長炭の生産の再興や、再生可能エネルギー(木質バイオマス)としての木材活用など、森林資源をより広く、有効的に活かしていくための取組も始まっています。

水産業の分野では、これまで豊かな漁場に恵まれ、多種多様な漁船漁業や魚類養殖業が営まれてきましたが、魚価の低迷や資材費の高騰などが漁業者の所得に影響を及ぼしています。また、四万十川のアユやアオノリなどの天然資源の減少も、年々、深刻化しています。こうした状況を打開するために、マダイ、ブリ、メジカなど地域内でとれる魚の産地加工の推進などによる付加価値の向上をはじめ、磯焼け対策、造礁サンゴの保全、産官学連携による四万十川の調査・研究などの天然資源の保護活動、さらには民間事業者と連携し、クロマグロをはじめとする養殖種苗の生産などにも取り組んでいます。

商工業分野では、郊外への大規模小売店を中心とした新たな商業集積などの影響を受け、圏域商業の拠点的な役割を果たす四万十市をはじめ、市街地の小売業を取り巻く環

境は厳しさが増えています。また、製造業や建設業の販売総額や生産額は、依然として低迷しています。

こうしたことから、幡多地域の産業界の連携を一層促進し、観光分野の取組などとも融合させながら、中心市街地等の魅力づくりや様々なイベントの実施、情報発信を行うことにより、全国に通用し、競争力のある商品づくりなどに取り組んでいます。

観光分野では、幡多地域の持つ「自然」や「食」、「歴史文化」、「人柄」を活かした滞在型・体験型観光の取組が着実に進んでいます。

また、県、幡多6市町村、観光関係団体・事業者など官民一体のもと、平成30年度から様々な施設の整備が予定されている竜串地区をはじめとして、観光資源を活かした体験メニューの造成・磨き上げを進めるとともに、地域全体が連携を図りながら観光地づくりに取り組むことで、国内外からの誘客促進に向けた取組を進めています。

(2) 地域アクションプランの概要

本計画では、第2期産業振興計画での取組を土台として、市町村や関係団体等と連携を密にしながら、更なる取組のバージョンアップと加速化を図り、新たな雇用創出や地域住民の所得向上に繋げていきます。

まず、様々な産業づくりの基盤であり、地域の基幹産業となっている第一次産業の振興に引き続き取り組んでいきます。

こうした第一次産業の素材を効果的に活用した加工品づくりを推進し、そのための生産基盤の充実・拡大や HACCP 対応による衛生管理の向上、地産外商の一層の推進に取り組む、販路拡大、新たなものづくりなどを後押ししていきます。観光面においても、これまでの取組を更に強化し滞在が可能な観光周遊ルートの策定をはじめ、体験メニューの磨き上げや拡充、スポーツツーリズムの推進、魅力ある「道の駅」などの交流拠点づくりなどに取り組むことで、交流人口の拡大を図っていきます。

農業分野では、地域特性を活かした産地づくりを推進し、果樹ではユズ、直七、ブシユカンなどの柑橘類の生産拡大、花卉では、洋ランのブランド化を推進します。また、加工用の施設整備や機械導入により、農産物加工品の生産拡大と新商品の開発を進めるとともに、地産外商に向けた販売体制の強化に取り組めます。さらに、地域外からの就農体験や研修の受入れに積極的に取り組むことで、移住等による農業後継者を育成していきます。

林業分野では、四万十ヒノキを利用した住宅建築を促進するとともに、域外への PR にも取り組み、四万十ヒノキのブランド化を目指します。また、土佐備長炭の生産体制の拡充や販売面での強化を図るとともに、地域の森林資源の高付加価値化に向けた取組を継続して推進します。

水産業分野では、メジカ（宗田節）、キビナゴ、清水サバ、クロマグロなどの地域を代表する水産物の知名度の向上やブランド化に向けた取組を引き続き進めていきます。メジカ・カツオ・ブリ（養殖含む）・タイ（養殖含む）・キビナゴなどの水産加工品の販路拡大を図り、拡大再生産や新事業展開などを進めていくことで、安定的に収入が確保できる仕組みを確立し、後継者の確保・育成に繋げていきます。また、衛生管理の高度化に向けて、引き続きアドバイザーの活用などを積極的に提案し、県版 HACCP の取得を推進していきます。

商工業分野では、引き続き、地域資源を活用した加工品づくりを進め、生産管理の高度化や新たな商品開発、販売拡大などに取り組めます。また、各地域の道の駅などの拠点施設において、定期的なイベントの実施などによる賑わいづくりや地元独自の農産物

等の販売を行うなど、「拠点ビジネス」をより一層強化し、売上アップと交流人口の増大を図ることで、地域への経済的な波及効果を拡げていきます。

また、当地域は、首都圏など大消費地から遠く、経済基盤が弱い零細事業者も多いことから、事業者の商品力の強化に向けた取組はもとより、メディアを通じた情報発信、アンテナショップや各種催事、商談会、県外の飲食店と連携した地域産品の販路拡大などあらゆるチャネルを活用した外商活動を展開していきます。

観光分野については、県内外に向けたプロモーション活動、魅力的な観光商品づくりなどに継続して取り組むことにより、更なる誘客促進に取り組んでいきます。また、平成29年3月から開催されている「志国高知 幕末維新博」や平成30年3月から開催されている「土佐の小京都中村550年祭」の取組に加え、平成29年7月に人工芝グラウンドが完成した土佐西南大規模公園を核と地域全体のスポーツツーリズムもさらに推進し、誘客促進に繋げていきます。

具体的には、幡多の広域観光を推進する（一社）幡多広域観光協議会の広域観光推進部会を中心に地域が一体となって、観光地づくりや情報発信に取り組み、広域の周遊や長期滞在が可能な魅力ある観光地づくりを目指して取り組んでいきます。

このような各分野の取組に加えて、研修事業や移住促進の取組などを通じて、産業の下支えをし、地域活性化の源になる人材の育成や担い手の確保などに取り組んでいきます。また、県、市町村、地域の事業者、団体等が一体となり、地域に根差した様々な地域産業クラスターを生み出していきます。

（3） 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
主要農産物の生産量等		
直七	H27 : 117 t	H31 : 200 t
ユズ（三原村の生産量）	H27 : 150 t	H31 : 495 t
「四万十の家」着工戸数	H27 : 23 戸	H31 : 30 戸
水産加工品の売上額	H26 : 2.5 億円	H31 : 6.0 億円
ビジネス拠点組織の売上額	H26 : 1.8 億円	H31 : 2.5 億円
幡多地域への入込客数	H26 : 1,274,622 人	H31 : 1,296,000 人

注1：水産加工品の売上額は、(株)沖の島水産の売上額

注2：ビジネス拠点組織の売上額は、ふれあいパーク大月の売上額

注3：幡多地域への入込客数は、幡多広域観光の集計数

(4) 具体的な取組

No.	項 目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町
1	高知県産洋ランのブランド確立・流通促進事業	●					
2	幡多産柑橘等を活用した新たな事業展開による販路拡大等事業	●					
3	長期肥育鶏の生産加工・流通体制確立事業		●				
4	四万十ぶしゅかん産地の形成とブランド化事業			●			
5	三原村ユズ産地化計画の推進事業					●	
6	「四万十の家」と地域産ヒノキの販売推進事業			●			
7	町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業				●		
8	すくも湾漁協と民間事業者の連携による水産物の加工・販売事業	●			●		
9	すくも湾漁協による水産物の加工・販売事業	●					
10	宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業	●					
11	宿毛湾の養殖魚を中心とした付加価値の高い加工品の販売事業	●					
12	四万十川の環境と資源を活用した産業振興事業			●			
13	キビナゴ加工商品の生産販売体制強化事業				●		
14	衛生管理強化等による干物等水産加工品販路拡大事業				●		
15	幡多地域産品販売体制構築事業	●	●	●	●	●	●
16	直七の生産、加工、販売の促進事業	●					
17	昭和初期からの地域伝統商品の販売拡大等事業	●					
18	土佐清水メジカ関連産業再生プロジェクト		●				
19	だしが良くでる宗田節商品の販路拡大促進事業		●				
20	地域産品を活用した加工商品の開発販売・流通システム構築推進事業		●				
21	海洋資源を活かした遊漁等による体験型交流推進事業		●				
22	栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト推進事業			●			
23	四万十牛の生産・販売拡大事業			●			
24	売り出せ西土佐プロジェクト推進事業(拠点ビジネス)			●			
25	四万十地域の素材を活かした新たな外商戦略構築事業			●			
26	地元農産物等を活用したペット関連商品の開発・販売拡大事業			●			
27	四万十の地域食材を中心とした商品開発・販売事業			●			
28	素材の特性を活かした地域色豊かな冷凍加工食品の開発・製造・販売事業			●			
29	遊休地を活用した地域商業活性化拠点づくり事業			●			
30	大月町まるごと販売事業(拠点ビジネス)				●		
31	三原村のどぶろくによる地域活性化事業					●	
32	地域産トマトの加工・販売の推進事業					●	
33	天日海塩を活用したビジネス推進事業						●
34	佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進事業						●
35	幡多地域の資源を活用した水産加工品等販売促進事業						●
36	地域資源を活かした防災関連商品推進事業						●
37	幡多広域における滞在型・体験型観光推進プロジェクト	●	●	●	●	●	●
38	幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口拡大プロジェクト	●	●	●	●	●	●
39	宿毛市観光振興事業	●					
40	竜串地域観光再生プロジェクト		●				
41	土佐清水まるごと戦略観光展開事業		●				
42	土佐清水ジオパーク推進事業		●				
43	四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光推進事業			●			
44	大月町自然体験・環境教育交流推進事業				●		
45	三原村の魅力を活かした滞在型観光推進事業					●	
46	黒潮町の地域資源を活かした体験型観光推進事業						●
47	集落活動センターによる地域の産業振興					●	

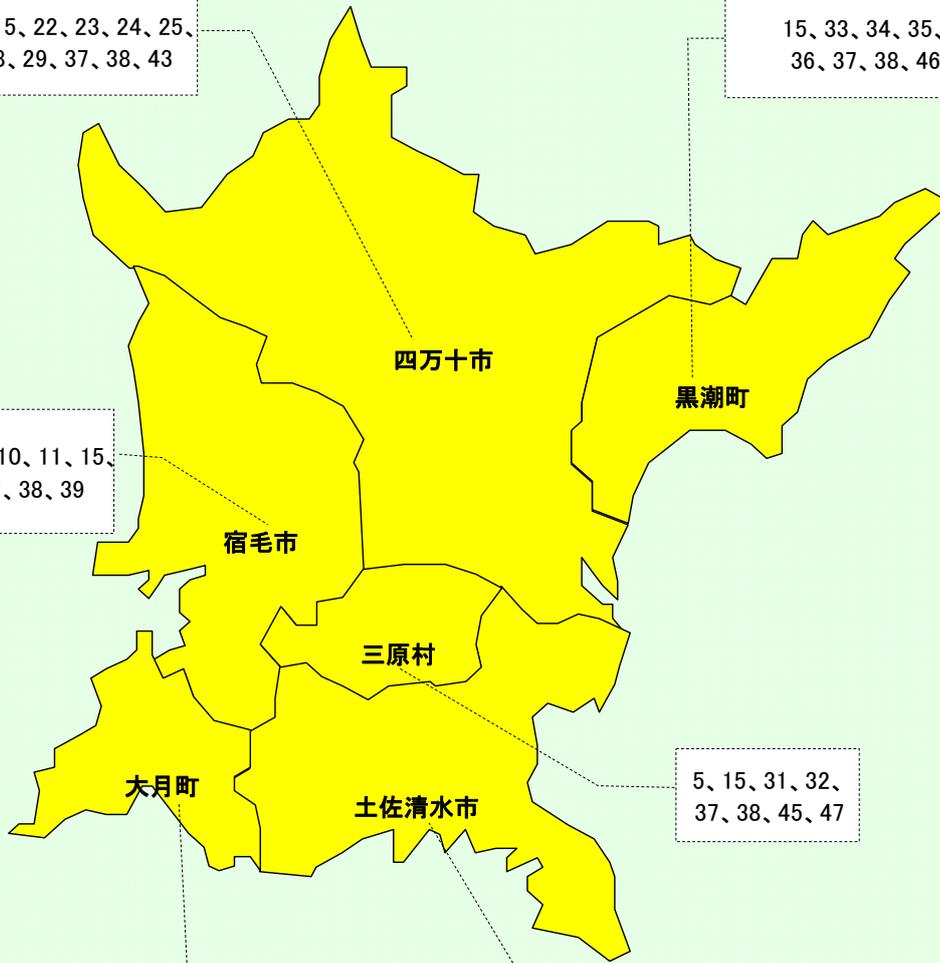


【幡多地域】

4、6、12、15、22、23、24、25、
26、27、28、29、37、38、43

15、33、34、35、
36、37、38、46

1、2、8、9、10、11、15、
16、17、37、38、39



5、15、31、32、
37、38、45、47

7、8、13、14、15、
30、37、38、44

3、15、18、19、20、21、
37、38、40、41、42

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>販路開拓と販売促進</p> <p>各種展示会・商談会等への参加</p> <p>パンフレット作成・インターネット販売事業の構築</p>					<p>売上高 (H23:85,197千円) (H26:80,438千円)</p>	<p>165,000千円</p>	
<p>生産体制の充実</p> <p>事業計画の作成</p> <p>事業計画に基づく施設・設備等の整備</p>							
<p>新事業の展開</p> <p>柑橘を利用した美容と健康の(プレ含む)セミナー等開催(県内中心)</p> <p>四国をはじめ、大阪、福岡での事業展開</p> <p>大阪、福岡を中心とした西日本への事業拡大検討</p> <p>首都圏への事業拡大</p> <p>健康志向の新事業向け新商品の開発、サービス提供の検討</p> <p>新商品提供のための店舗整備検討</p> <p>美容と健康を提案できる柑橘の販売システムの構築</p>					<p>売上高 (H26:40,000千円) (H27:44,179千円)</p>	<p>65,000千円</p>	
<p>既存商品の販路拡大</p> <p>発注単位の細分化対応、有機栽培、減農薬栽培への継続的な取り組み</p> <p>地域イベントの企画・参加</p> <p>HPのリニューアル</p> <p>商談会参加</p> <p>販促PR資材等の製作</p> <p>加工施設・設備等の整備検討</p>							
<p>加工処理施設の整備</p> <p>加工処理施設の建設計画の作成</p> <p>加工処理施設の建設</p> <p>鶏舎建設(規模拡大)の検討</p>					<p>生産羽数 (H27:0羽)</p>	<p>3,848羽</p>	
<p>生産体制の整備</p> <p>肥育ノウハウの蓄積</p> <p>肥育ノウハウの蓄積・改善の継続</p>							
<p>流通販売体制の整備</p> <p>関西エリアの販路開拓</p> <p>関西エリアを中心にPR・販路拡大活動</p> <p>市内飲食業・宿泊施設での利用に向けたPR・販売体制の構築</p> <p>学校給食等での利用促進活動の展開</p>					<p>加工出荷額 (H27:0円)</p>	<p>17,436千円</p>	

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>4 四万十ぶしゅかん産地の形成とブランド化事業 《四万十市》</p>	<p>地域特産のぶしゅかんを産地化し、全国展開できるブランド力を育成することで、農家所得の向上を目指す。</p>	<p>・四万十市 ・四万十ぶしゅかん生産者組合 ・四万十ぶしゅかん(株)</p>	<p>アクションプランの取組開始:H28 ・四万十ぶしゅかん生産者組合の設立(H28) ◆産地化を効率的、効果的に進めるための体制が確立された。</p> <p>・栽培マニュアルの作成(H28)、改訂(H29) ・栽培現地講習会の開催(H28～) ・出荷基準の作成(H28) ・生産量 H28:26,259kg(対目標値:102.5%)、H29:23,380kg(同:74.2%) ・地方創生交付金による拠点施設整備(H28～29) ◆集出荷・加工・搾汁・保管機能を有した施設が稼働したことで、加工品の生産や衛生管理が強化され、販路拡大に向けた環境が整った。 ・ぶしゅかん解禁イベントの実施(H28～) ・首都圏でのぶしゅかんキャンペーンの実施(H28～) ・テレビやラジオ等でのPR活動(H28～) ・市内小中学校でのぶしゅかん学習会開催(H28～)</p>	<p>・生産者の確保、栽培面積と生産量の拡大 ・集出荷体制の見直し</p>	<p>◆産地化の推進(栽培面積の拡大)</p> <p>◆生産量の増加</p> <p>◆集出荷体制の効率化</p> <p>◆生産体制及び衛生管理体制の強化</p> <p>◆展示会や商談会への出展及び量販店等への営業活動</p> <p>◆各種媒体でのPR活動</p>

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
産地化の推進(栽培面積の拡大)					→	栽培面積 (H27:490a)	1,440a
苗木購入支援、鳥獣害防護柵等資材の補助							
苗木供給体制の確立							
生産量の増加					→	生産量 (H27:18,700kg) (うち園地分:5,700kg、 周辺農家買取分: 13,000kg)	46,800kg (うち園地分: 26,800kg、周辺 農家買取分: 20,000kg)
栽培基準の徹底							
栽培管理技術の向上							
生産者組織の 設立	生産者組織の育成(勉強会・研修会・視察等)						
集出荷体制の効率化					→		
生産者組織による効率的 な集出荷体制の構築	効率的な集出荷の実施(検証・見直し・再構築)						
生産体制及び衛生管理体制の強化					→		
低コスト化・省力化に向けた設備導入の検討							
収穫量に見合う施設整備の検討							
展示会や商談会への出展及び量販店等への営業活動					→		
<ul style="list-style-type: none"> ・商談会・展示会への出展 ・県内外の物産展(イベント)への出展 ・首都圏等の大消費地でのブランディングキャンペーンの実施 							
各種媒体でのPR活動					→		
各種媒体でのPR活動の実施・効率的なPR活動の検証							

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
5 三原村ユズ産地化計画の推進事業 《三原村》	三原村の環境を生かした農業振興策として、ユズの産地化に取り組むことにより、生産者の所得の向上と新たな雇用の創出を目指す。	・(公財)三原村農業公社 ・三原村 ・JA高知はた	アクションプランの取組開始:H21 ・農業機械高度化(H21~23) ・栽培維持、発展支援システムの構築(H21~23) ・公社施設の整備(H22) ・ユズ選果加工施設整備(H26~27) ◆三原村農業公社の農地集積により、ユズの栽培面積が増加。(H19:7.6ha→H23:28.1ha→H27:43.3ha→H28:45.3ha) ◆青果率の向上が図られた(H27:13%→H28:21%) ◆栽培~収穫~加工~販売までの一連の体制を構築した結果、販売額も増加(H24:12,515千円、H25:17,363千円、H26:16,738千円、H27:23,720千円、H28:45,020千円) ・商品づくり・販路開拓(H21~) ・ODMでユズ商品の開発(H27) ◆H22よりオリジナル加工品販促活動が本格化。各種フェア等への出展等により商品が浸透し始めている。 ◆担い手を確保した。(H28:1名新規就農)	・担い手の確保 ・ユズ加工商品の販売促進	◆地域農業支援システムの推進 ◆ユズ製品開発及び加工施設の整備
6 「四万十の家」と地域産ヒノキの販売推進事業 《四万十市》	平成22年度に建築したモデルハウス「四万十の家」をPRし、四万十ヒノキを利用した住宅建築を促進するとともに、四万十ヒノキのブランド化を図ることにより、地域内外での販売を促進し、地域経済の活性化を図る。	・四万十市	アクションプランの取組開始:H21 ・モデルハウス建設(H22) ・モデルハウス「四万十の家」利用開始(H23.4月~) ・市産材補助事業(H23~) ◆モデルハウスについて、林業関連事業者の学習会場利用や一般利用等により当初想定を超える利用状況であり「四万十の家」のPRにつながった。あわせて、市産材補助制度により、「四万十の家」着工件数もH23:23件、H24:29件、H25:38件、H26:32件、H27:34件、H28:31件と順調である。 ・地域産ヒノキのブランド化に向けた4市町村推進協議会の設立(H23) ◆四万十市、三原村、四万十町、中土佐町の推進協議会が設立されたことで、従来の幡多ヒノキ・高幡ヒノキとの区分等、整理すべき課題解決に向けた検討の場ができた。 今後は、ブランド化にあたってのロゴマークの具体的な活用方法について課題を整理・検討していくとともに、イベント等でのPR活動を継続する。 ・ロゴマーク入りステッカーやジャンパーを作成(H28~)	・モデルハウス活用による、より積極的なPR ・四万十ヒノキのロゴマークの具体的な活用方法 ・四万十ヒノキの利用拡大	◆「四万十の家」のPR ◆四万十ヒノキのブランド化の推進
7 町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業 《大月町》	町内に生育する最高級のウバメガシ等の山林資源を活用して、古くから行われていた白炭の生産を復活し、製炭の産業化を目指す。	・大月町備長炭生産組合	アクションプランの取組開始:H22 ・協議会立ち上げ(H21) ・組合立ち上げ(H22) ◆H23、H24産業振興総合補助金を活用し、生産窯を設置。あわせて、ふるさと雇用事業を活用し、生産から販売までの仕組みづくりに取り組んだ。その結果、H26末時点で生産窯10基体制が確立し、8人の雇用を創出、取引先も確保できている。 ・原木確保(H28~) 地区有林の伐採権譲渡契約を締結(H28) ・生産者が9名になる。(H28) ・地域林業総合支援事業費補助金を活用し原木搬出用作業道整備(H29)	・生産規模が少ない ・生産量の安定と質の向上 ・収益の多様化、チャネルの多角化 ・当面の自主財源不足 ・安定的な原木の確保	◆生産力向上 ◆加工品づくり ◆販路拡大・広報活動

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
地域農業支援システムの推進					 ユズ生産量 (H19: 65t) (H22: 74t) (H26: 103t)	495t	
水田転換畑へのユズの新植推進と青果率向上対策							
生産の担い手対策及び産地の維持、発展に向けた支援システムの実施							
ユズ製品開発及び加工施設の整備					 販売額 (H24: 12,515千円) (H25: 17,363千円) (H26: 16,738千円)	129,388千円	
ユズ新商品の開発研究及びユズ商品(ODM)の販売							
加工機械の整備	加工商品の製造・販売						
「四万十の家」のPR					 「四万十の家」着工戸数 (H27: 23戸)	30戸	
モデルハウスの見学・宿泊体験の実施、管理運営、建築業者・設計士との連携							
市産材補助制度の継続(利用しやすい制度へ内容と仕組みの再検討)							
四万十ヒノキのブランド化の推進							
道路網整備、林業事業者の育成による森林整備の促進							
市木材利用推進方針に基づく公共施設の木造化・木質化の推進							
広報活動及びPR活動による四万十ヒノキの利用促進							
川上から川下への供給体制の構築及び関係市町村との連携強化							
生産力向上					 販売量 (H26: 75.7t)	200t	
<ul style="list-style-type: none"> 町内での生産者の育成研修 生産備長炭窯の建設(研修生の育成に合わせて) 							
加工品づくり					 備長炭のハネ炭を利用した小売商品の開発、営業活動(利益の底上げ、商品PR)		
販路拡大・広報活動							
白炭(燃料用)の四国内での営業活動、販売促進用グッズ作成							
ホームページ更新、産地化に向けた情報発信(生産組合、生産者の情報発信)							
観光体験メニューの実施、町内のイベント等への出展・即売会の実施							

【幡多地域】

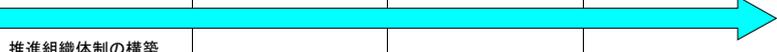
項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
8 すくも湾漁協と民間事業者の連携による水産物の加工・販売事業 《宿毛市・大月町》 ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト)	漁協・民間会社の連携により漁協市場付近に整備した加工施設を核として、地元水産物の付加価値向上、地産地消・外商を進めることで、雇用創出につなげていく。	・すくも湾漁業協同組合	アクションプランの取組開始:H22 ・加工施設整備(H22) ・加工品の製造、出荷開始(H23.4月) ・真空包装機、ヘッドカッターの導入(H26.8月) ・フィレマシンの導入(H27.4月) ◆H22産業振興総合補助金を活用し、加工施設等を整備。H23.4月下旬から稼働。キビナゴなどを使用した惣菜を製造し、飲食店チェーン企業へ出荷。H26からは水産商社等と連携し、養殖ブリのフィレ加工に着手し、販売を開始した。 ◆通年出荷に向けた試験出荷を行い(H28～、加工尾数(H28.12):約109千尾)、雇用が増加した。(H27:9人→H28:16人)	・加工量の増大	◆加工原魚の安定調達と加工体制の強化
9 すくも湾漁協による水産物の加工・販売事業 《宿毛市》 ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト)	宿毛市片島地区に整備した施設を核として、水産物の加工・販売を展開し地産地消・外商を進めることで、漁業者の所得向上や雇用創出につなげていく。	・すくも湾漁業協同組合	アクションプランの取組開始:H21 ・加工施設整備(H21) ・加工商品の製造、販売及び販路開拓(H21～) ・事業内容の精査(H25) ・事業内容の再構築(H26) ◆学校給食や病院関係を中心とした販路開拓により売上が増加。 ◆H26に事業内容を再構築し、経営改善が図られた。 ・新たな販路拡大 ・ふるさと納税の返礼品として「宿毛の養殖ブリ、直七マダイの豪華しゃぶしゃぶ鍋セット」を作製し、取引を開始	・経営の安定化	◆製造、販売体制の維持、強化
10 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業 《宿毛市》 ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト)	ブリやカツオ等、宿毛近海で獲れる魚を活用した加工品の生産体制充実や販売促進に取り組むことで、宿毛産の魚のブランド化を推進し、漁業者所得の向上を図る。	・(株)沖の島水産	アクションプランの取組開始:H24 ・県「弥太郎! 商人塾」参加(H22.H23.H25.H26) ・県ステップアップ事業による冷凍施設整備、パッケージデザイン制作、販売促進の実施(H23) ・県産業振興総合補助金活用による加工施設整備(H25) ◆加工品売上高は、H22:800万円、H23:1,929万円、H24:4,209万円、H25:7,158万円、H26:2.5億円と順調に伸びている。 また、H25の加工施設整備により、衛生管理面の向上とあわせ、生産体制の強化充実が図られ、系列店への出荷も順調に推移するなど、今後のさらなる展開が期待できる。 ・系列飲食店の新規開店(H28) ・県版HACCP研修受講(H29) ・加工場の増設(H29) ・産振アドバイザーの活用(個人顧客への販路拡大)(H29)	・人材育成 ・販路の拡大 ・消費者ニーズに応じた新商品の開発	◆生産体制の充実強化 ◆商品開発と販売促進

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
加工原魚の安定調達と加工体制の強化 ・加工原魚の安定調達の仕組みづくり ・加工程の見直し等による体制強化						売上高 (H26: 1.04億円)	1.22億円
						加工量(原魚ベース) (H26: 191.4t)	400t
製造、販売体制の維持、強化 ・既存販売先への商品の安定供給と販路拡大 ・利益率の高い商品の開発と販売						売上高 (H26: 37,553千円)	50,000千円
生産体制の充実強化 生産体制の強化						売上高 (H22: 0.08億円) (H26: 2.5億円)	6億円
商品開発と販売促進 各種展示会・商談会等への参加 新商品開発							

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
11 宿毛湾の養殖魚を中心とした付加価値の高い加工品の販売事業 《宿毛市》 ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト)	養殖場周辺に整備した加工施設を核に原魚の鮮度を保持した付加価値の高い加工品製造に取り組み、通年・一定価格で販売する。これにより経営の安定化を図り、地域漁家との連携協力体制を構築して、宿毛湾産養殖魚のPRを実施するとともに、漁業者の減少を防ぎ、地域雇用を生み出す。	・(株)勇進	アクションプランの取組開始:H27 ・「目指せ! 弥太郎商人塾」参加(H27) ・県産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した加工施設整備(H27) ・県内外の商談会に出展(H28~) ・新商品開発(H29~) ・県版HACCP研修受講(H29)	・原魚の周年確保 ・販売契約件数の増大 ・販売戦略の見直し	◆加工品の商品開発・販路拡大 ◆生産体制の確立
12 四万十川的环境と資源を活用した産業振興事業 《四万十市》	四万十川の汽水域を中心に、スジアオノリをはじめとする漁業資源を回復させ、付加価値を付けて売り出すことで、地域における雇用創出と所得向上を図る。あわせて、資源や環境のモニタリング及び保全活動を継続し、アユをはじめとする四万十川の恵みを持続的に利用していくための方策を検討していく。	・四万十市 ・四万十川下流漁業協同組合	アクションプランの取組開始:H22 ・高知大学との連携による調査(H21~23) ◆アユやスジアオノリの資源については、四万十市と高知大学が連携して科学的な調査に乗り出し、「汽水域シンポジウム」や連携事業の報告会を通じて、関係機関や地域住民と情報交換を行う事で、徐々にではあるが現状把握や資源の回復に向けての協力体制ができつつある。 ・アオノリ・アオサノリの漁協ブランドでの販売(H21~23) ◆H21から試験的にはじめた下流漁協のアオノリやアオサノリの製造・販売事業について、H23.10月に6次産業化法に基づく総合化事業計画の二次認定を受け、取組にはずみがついた。 ・6次産業化の取組(H24~) ◆H24.8月に6次産業化法に基づく総合化事業計画承認。アオノリ・アオサノリの粉末製品を作成し、H24から商談会等での販路開拓を行い、H25から販売を開始した。新たな取引先も増え、今後も積極的に販売していく予定。 ◆スジアオノリ、アオサノリの漁協販売額H22:490千円→H25:2,120千円(H25は粉末製品を含んだ額)→H26:2,681千円。 ・スジアオノリの浮かし網養殖の取組(H28~) 区画漁業権免許を取得し、浮かし網による養殖を開始した。(H28)	・生産力及び生産効率の向上 ・関係者間の情報共有の強化と協力体制の構築 ・資源及び環境の現状把握	◆スジアオノリ生産量アップの取組 ◆スジアオノリ・アオサノリ小分け及び粉末製品の販売数量アップの取組 ◆情報共有体制の仕組みづくり ◆河川における資源回復の取組
13 キビナゴ加工商品の生産販売体制強化事業 《大月町》 ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト)	大月町の地域資源の一つであるキビナゴを活用した商品加工体制の基盤強化を図るとともに、町内の道の駅等との連携による県内外の販売促進活動を行う。これにより、キビナゴの消費拡大、雇用拡大、連携先の売上増等につなげる。	・八重丸水産(株)	アクションプランの取組開始:H23 ・加工場改修・攪拌機の整備(H23) ・県外への展示会へ出展・販促資材の整備(H24) ・業務用商品開発プロジェクト等の県等の補助事業の積極的利用(H23~27) ・塩麹味、化学調味料不使用タイプの商品開発、スタンドバック、小包装商品等、消費者ニーズに応じた商品の開発(H26~) ・高知県版HACCP(第2ステージ)取得(H29) ◆製造能力の増加、展示会等への積極的参加により、H24地場産業大賞奨励賞受賞や、問屋等と取引増等、県内外の認知度も高まり、売上も好調である。H22:5.3万袋→H26:11.0万袋	・キビナゴ原魚の確保 ・販路拡大 ・市場ニーズに対応した新商品の開発・商品の改良	◆販路拡大・販売促進 ◆新商品開発・既存商品の磨き上げ

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
 加工品の商品開発・販路拡大 商談会への参加、サンプル送付・漁場視察受け入れなどによるニーズ調査・顧客開拓等					売上高 (H26:0円)	2.56億円	
 生産体制の確立 従業員教育研修の実施							
 スジアオノリ生産量アップの取組 四万十川下流漁協:浮かし網養殖によるスジアオノリ生産量の向上					スジアオノリの生産額 (H26:1,899千円)	50,000千円	
 スジアオノリ・アオサノリ小分け及び粉末製品の販売数量アップの取組 小型粉碎機の導入、原藻及び製品の保管施設の設置、生産量の段階的増大、新たな販路開拓							
 情報共有体制の仕組みづくり 情報共有会議等の継続開催(四万十川下流漁業協同組合・四万十市等)					スジアオノリ、アオサノリ の小分け及び粉末 製品販売額(H26: 2,681千円)	12,000千円	
 河川における資源回復の取組 アユ稚仔魚の生息状況調査、アユ仔魚流下調査等							
 販路拡大・販売促進 営業活動(県内外の商談会に出展PR)					きびなごケンピ売上高 (H23:23,960千円) (H26:25,950千円)	29,820千円	
 新商品開発・既存商品の磨き上げ 販路に合わせた商品形態の見直し、新商品開発、提携商品の検討							

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					商品売上高 (H26: 14,549千円)	33,000千円	
販路開拓	販促グッズ等作成検討	パンフレット作成					
インターネット販売による新規顧客の掘り起こし							
各種展示会・商談会等への参加							
							
新商品開発・既存商品の磨き上げ							
既存商品の見直し・磨き上げ、新商品開発							
							
推進組織体制の構築	推進組織の設立	事業計画の策定・事業推進体制の仕組みづくり及び体制の構築					
							
販路開拓及び販売促進活動							
フェア等の開催							
県外からのバイヤー招聘事業							
販売促進ツールの作成		商談会・展示会への出展					

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
生産体制の強化					→	直七果実生産量 (H22:21t) (H27:117t)	200t
新植等による作付面積の拡大							
新商品の開発					→		
新商品開発(試作・調査)							
販路拡大					→		
展示会・商談会への参加							
販路拡大					→	売上高 (H26:3,000千円)	60,000千円
商談会等への参加、県外での店頭販売							
自社サイトによるインターネット販売の開始・拡大							
新商品の開発					→		
アドバイザーの導入	昭和レトロをコンセプトにした新商品の開発						
羊羹パン等の商品改良							

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
18 土佐清水メジカ関連産業再生プロジェクト 《土佐清水市》 ※地域産業クラスター関連(土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)	土佐清水市の主要な産業の一つであるメジカ関連産業を核として、原材料の確保から加工食品の製造、販売促進を一体的に取り組み連携体制を構築することで地産地消外商を強化し、雇用の創出と地域経済の活性化を図る。	・土佐清水ホールディングス(株) ・土佐食(株) ・(株)土佐清水元気プロジェクト ・宗田節をもっと知ってもらいたい委員会 ・土佐清水市	アクションプランの取組開始:H21 [土佐食(株)] ・水産物処理加工施設用機器導入(H22) ◆H22産業振興総合補助金を活用し、機器等を導入したことで、ペットフード安全法改正に適合でき、かつ新商品開発も可能となった。 ◆H25～26実績で、原魚取扱量(3,500t)及び売上高(16.8億円)ともにH27目標値を上回っており、雇用についても197人と、H27目標値をほぼ達成し、地域の産業振興に大きく貢献している。 ・食品部門の販路販売拡大のための、アジア圏をターゲットとした市場調査 ・道の駅「めじかの里土佐清水」の指定管理者(H26.7.1～H29.3.31)となり、H26.7.19にリニューアルオープン。 [(株)土佐清水元気プロジェクト] ・集出荷システムの構築及び関連施設整備(H21) ◆H21産業振興総合補助金を活用し、農産物の集出荷システムを構築。農業者の所得向上や、水産物の冷凍事業により漁業者の所得向上にもつながっている。 ・特産品開発及び流通販売システムの構築(H21～) ◆約30種類の商品を販売。H25には『土佐の清水さば漁師演げ』が、H27には『宗田だし小夏ノンオイルドレッシング』が展示会等で評価を受けるなど、宗田節関連商品が順調に売上を伸ばしている。 ・OEM生産事業の取組(H24～) ◆高知県産業振興センター所管助成事業を活用し、体制づくり及び商品開発。OEM生産が地域貢献(地域内事業者の商品開発・販路拡大の手助け)につながっている。 ・一次加工体制の構築(H26～) ◆県漁協が整備した一次加工施設の運営を開始。未利用資源・低価格魚を冷凍事業との連携(既存施設の有効活用)により、一次加工品として販売し、売上増、雇用創出につながっている。 [宗田節をもっと知ってもらいたい委員会] ・宗田節PRの推進組織「宗田節をもっと知ってもらいたい委員会」設立(H22) ◆積極的なPRにより、宗田節の認知度が一定向上した。 ・一般消費者向け宗田節新製品を開発(H23～24:7商品開発) ◆継続した商談会への参加により売上が順調に推移している。(新商品売上高 H24:8,870千円→H25:18,360千円→H26:24,950千円) [土佐清水ホールディングス(株)] ・土佐清水メジカプロジェクト推進協議会の設立(H29)	・土佐清水全体でのメジカ関連産業の事業化に向けた仕組みづくり [土佐食(株)] ・ペットフード以外の商品販売促進 ・施設の老朽化対策 [(株)土佐清水元気プロジェクト] ・原料の確保及び生産効率の向上(生産量の拡大) ・OEM生産事業、一次加工事業の強化 ・売れ筋商品の販売拡大 ・流通販売システムの強化と受入態勢の構築 [宗田節をもっと知ってもらいたい委員会] ・宗田節のさらなる認知度の向上	◆経営戦略の策定 [土佐清水ホールディングス(株)] ◆商品開発及び販促活動 ◆水産物処理加工関連施設等整備 [(株)土佐清水元気プロジェクト] ◆農産物等処理加工関連施設等整備 ◆新たな特産品開発とOEM生産事業・一次加工事業の推進・強化 ◆販売促進と流通システム構築に向けた取組の強化 ◆宗田節のPR活動、ブランド化の推進 [宗田節をもっと知ってもらいたい委員会]

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
経営戦略の策定					→	販売額 (H22:14.78億円) (H26:17.92億円)	25億円
経営戦略策定に向けた経営資源の選択、戦略の策定及び見直し							
商品開発及び販促活動					→		
商品開発、販促活動(各種商談会等への参加。土佐食糧、榊土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市の連携による商品PR及び営業活動など)							
商品開発に必要な施設整備の検討・実施					→		
水産物処理加工関連施設等整備							
水産物処理加工関連施設及び機器導入の検討・実施					→		
農産物等処理加工関連施設等整備							
必要施設の整備検討・実施					→		
新たな特産品開発とOEM生産事業・一次加工事業の推進・強化							
商品開発、ブランド登録など					→		
商品開発に必要な施設整備の検討・実施							
OEM生産事業・一次加工事業の販路開拓・販売促進					→		
販売促進と流通システム構築に向けた取組の強化							
<ul style="list-style-type: none"> 海外見本市や各種商談会等への参加、商品PR及び営業活動など 県アンテナショップ等を活用したマーケティング調査など 土佐食糧、榊土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市と連携した販売促進 提携業者との連携による経営戦略の検討 					→		
流通販売システムの強化及び受入態勢の構築							
宗田節のPR活動、ブランド化の推進					→		
食育活動や外商活動の継続した実施							
土佐食糧、榊土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市の連携による県内外への宗田節PR活動の展開、プロモーション活動との連携					→		

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>販路拡大に向けた取組の強化</p> <p>・展示会・商談会等への参加、HPの充実、販促PR資材の製作 ・プライダール・ギフト業界等への販売ルートの拡大と確立</p>					<p>販売額 (H22:22,000千円) (H26:47,600千円)</p>	<p>70,000千円</p>	
<p>商品開発・改良</p> <p>新商品の開発</p> <p>新商品の販売促進・磨き上げ</p> <p>既存商品の磨き上げ・改良</p>							
<p>衛生管理の向上による生産体制の強化</p> <p>県版HACCP取得に向けた取組</p> <p>県版HACCPの取得</p> <p>衛生管理の向上による安心・安全な商品づくりに向けた生産体制の強化</p>							
<p>流通システムの構築</p> <p>事業計画の策定</p> <p>流通システムの構築・検証改善</p> <p>各市町村及び生産者、加工事業者との協議・調整</p>							
<p>地域産品を活用した加工商品の開発・販売促進</p> <p>地域食材や加工品等の販売促進</p> <p>地域産品の掘り起こし</p> <p>加工商品の開発</p> <p>加工商品の生産施設の検討</p> <p>加工商品の生産施設の整備</p>							
<p>漁村集落等を活用したメニューづくり</p> <p>・視察・研修・適地の検討 ・多様な関係者等との協議の場づくり ・メニューの洗い出し</p> <p>・釣堀等メニューの事業化 ・視察・研修</p>							
<p>多様な事業者と連携した受入体制づくり</p> <p>・視察、研修 ・地域等との連携協議 ・受入に必要な手続(遊漁船業等) ・運営方法の検討</p> <p>・受入に必要なサービス、施設等の整備 ・運営方法の構築・改善</p>					<p>来客数 (H28:300人)</p>	<p>1,600人</p>	
<p>誘客の促進</p> <p>・体験メニューづくり及び誘客計画の作成</p> <p>・多様な事業者と連携したPRと販売促進の展開</p>							

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
商品の高付加価値化と情報発信					→	栗加工品製造量 (H22: 1.5t) (H26: 4.0t)	8t
企業向け商品の販促活動(会員との取引増)							
一般消費者向け商品の販促活動(生産の現場が見える情報の発信)							
栽培しやすい環境づくり(高価買取、栽培技術支援・基盤づくり)					→	原材料(生栗)の仕入量 (H22: 2.5t) (H26: 6.5t)	12t
栗産地再生にむけた支援・栽培指導							
担い手育成のための栽培スタイルの実践(企業栗園・週末農業・集団栽培等)							
地域の他素材を使った商品づくり					→		
商品開発							
販路拡大及び新商品開発					→	売上高 (H26: 131,446千円)	200,000千円
精肉店・飲食店の売上拡大							
県内外への販促活動							
商品開発							
原材料供給体制の強化					→		
安定した生産の継続							
生産量の拡大							

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
24 売り出せ西土佐プロジェクト推進事業(拠点ビジネス) 《四万十市》	道の駅を核として、西土佐地域の多様な人材や事業者等が連携し、地域素材を活用した加工品の開発・販売や交流体験観光の情報発信等を行うことで、幡多地域の北の玄関口として交流人口を拡大し、地域の活性化を図る。	・(株)西土佐ふるさと市 ・四万十市	アクションプランの取組開始:H24 ・施設整備計画(H24~) ・H28営業開始に向け、H24基本計画、H25実施設計、H26用地取得完了。H27木造公共施設等整備事業費補助金および木の香るまちづくり推進事業費補助金を活用し施設整備(H28.4.10オープン予定)。 ・体制づくり(H25~) ◆H24商人塾参加やH25~出荷者向け研修の実施等、運営体制強化。H26~地域人づくり事業により1人雇用。H27.4月、ふるさと市組合(指定管理者)の株式会社化により運営体制が確立。 ・商品開発(H24~) ◆全国展開支援事業、四万十市道の駅地域産品開発等特別支援補助事業、県産業振興アドバイザー制度等を活用し、地元民間事業者の新商品開発を支援。その結果、開発商品数は増加している。(開発商品数=H23:6商品、H24:11商品、H25:18商品、H26:22商品) ・道の駅開業に向けた準備(H27~) ・開業に向けた戦略会議を開催 ◆H27.11月道の駅登録、名称が「よって西土佐」に決定。H28.4開業。 ・外商活動(H28~) ◆松山サテライトショップのオープンや道の駅との連携を活かして地域外に販路を拡大した。	・魅力ある商品開発・販売戦略の推進(地域の魅力発信) ・道の駅を中心とする活力ある地域づくり	◆地域ならではの商品づくり、販売促進 ◆周辺施設・商店街等との連携(地域拠点としての機能強化)
25 四万十地域の素材を活かした新たな外商戦略構築事業 《四万十市》	四万十市の漁業者、農家、加工業者、販売者が連携し、四万十の食材を中心とした加工商品を開発・製造・販売することで、地域内外での売上を拡大し、地域活性化を目指す。	・しまんと百笑かんばんに(株) ・四万十市地域商品研究会	アクションプランの取組開始:H26 ・新商品開発等(H26~) ◆3アイテム(9種類)の商品開発により、ラインナップの充実を図った。(H26) ◆既存商品(5種類)のブラッシュアップを実施。(H28) ・販路開拓及び拡大(H26~) ◆国内の商談会、展示会、イベント出展により、順調に販路が拡大している。また、H27にはジェトロの事業を活用し、海外での販路開拓に向けた調査等を実施したことにより、販路開拓に向けたノウハウを習得した。H28に県の委託を受けて台湾での高知県フェアを開催するなど、国内外で積極的に販促活動を展開している。 ・生産体制の強化(H26~) ◆産振総合補助金を活用し、加工場を整備したことで、生産設備の効率化が図られ、増産が可能となった。(H29) ・HACCP研修等衛生管理研修受講(H28~) ◆HACCP認証取得による販路拡大に向けた取組みを開始。 ・四万十市地域商品研究会の継続開催(H26~) ・四万十市人材育成研修事業の実施(H27~) ・県の頑張る人づくり事業を活用し、外商に耐える商品づくりやマーケティング手法の習得を目的に研修会を実施。 ◆四万十市の事業者が定期的に集い、情報・意見交換やセミナーを実施、商品開発や販路拡大等のスキルアップにつながっている。	・商品ラインナップの充実 ・生産拡大に向けた施設整備 ・地域商社としての役割強化	◆自社商品の開発強化 ◆販売拠点整備と販路拡大 ◆四万十市地域商品研究会と連携した新商品づくり、販路拡大

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>地域ならではの商品づくり、販売促進</p> <p>商品、飲食施設提供メニューのブラッシュアップ</p> <p>外販活動の継続</p>					<p>売上高 (H26:0円)</p>	<p>150,000千円</p>	
<p>周辺施設・商店街等との連携(地域拠点としての機能強化)</p> <p>情報発信機能の強化</p> <p>周辺施設等との連携強化</p> <p>地域住民の憩いの場づくり</p>							
<p>自社商品の開発強化</p> <p>商品開発、地域性のある農産物(生鮮)等の商品化</p> <p>生産体制の強化に向けた施設整備の検討</p> <p>生産施設整備</p>					<p>商品売上高 (H26:30,000千円)</p>	<p>83,371千円</p>	
<p>販売拠点整備と販路拡大</p> <p>首都圏での拠点整備</p> <p>拠点の運営</p> <p>商談会・展示会への出展等の販売促進活動</p> <p>四万十フェア等(生鮮食品販売)の開催</p>							
<p>四万十市地域商品研究会等と連携した新商品づくり、販路拡大</p> <p>新商品の開発</p> <p>四万十市地域商品研究会と連携した商談会・展示会への出展等の販売促進活動</p> <p>生産者及び製造者と連携した各地(国外を含む)でのフェアの開催</p> <p>人材育成セミナーの開催</p>							

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
26 地元農産物等を活用したペット関連商品の開発・販売拡大事業 《四万十市》	四万十市の農産物を中心に、県産素材にこだわったペット関連商品を開発し、地産外販を進めることで、地域経済の活性化を図る。	・WAN LIFE	アクションプランの取組開始：H28 ・産業振興アドバイザーの導入（H28～29） ・通信販売を主体としたギフトセット（10種類）が完成し、ふるさと納税返礼品にエントリー（H28） ・HPのリニューアル（H29） ◆通販部門が強化され、売上の拡大が図られている。 ・商品開発（H28～） ◆3アイテムの開発により、ラインナップの充実が図られた。 ・生産体制の強化（H29） ◆生産スペースの改修や設備の導入により、新商品の増産が可能となった。	・原材料の確保	◆商品開発 ◆販促活動 ◆生産体制の充実・強化
27 四万十の地域食材を中心とした商品開発・販売事業 《四万十市》	四万十川流域の素材を使用したかりんとう等の商品開発により、県内外での販売を拡大し、生産者の所得向上及び安定した収入の確保を目指す。	・(株)LLPLまんと	アクションプランの取組開始：H28 ・商品開発（H28） 新たに2アイテムの商品を販売開始。OEM商品1アイテムも販売を開始。 ・組織の株式会社化（H28） ・HACCP研修受講（H29）	・商品開発 ・生産体制の効率化 ・組織の強化	◆商品ラインナップの充実 ◆販路開拓及び販売促進 ◆組織の強化及び生産体制の効率化、省力化による低コスト化に向けた取組
28 素材の特性を活かした地域色豊かな冷凍加工食品の開発・製造・販売事業 《四万十市》	地域色豊かな食材を活用した冷凍加工食品を開発・製造・販売することで、食材自体の認知度を向上させ、生産者の所得向上を目指す。	・(有)和	アクションプランの取組開始：H28 ・商品開発（H28） 3アイテムの商品が完成。既存商品のパッケージを新商品と統一感を持たせるためリニューアル。 ・HACCP研修等衛生管理研修受講（H28～）	・販路拡大 ・生産拡大	◆商品開発及び改良 ◆販路拡大及び販売促進 ◆生産体制の強化・充実

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>商品開発</p> <p>地元素材を利用した新商品開発</p> <p>商品ブラッシュアップ</p>					<p>売上高 (H26: 2,088千円)</p>	<p>10,352千円</p>	
<p>販促活動</p> <p>各種商談会への参加、商品PR及び営業活動など</p> <p>生産体制の充実・強化</p> <p>加工施設・設備等の整備検討</p>							
<p>商品ラインナップの充実</p> <p>既存商品のブラッシュアップ</p> <p>新商品の開発</p>					<p>売上高 (H26: 24,297千円)</p>	<p>37,500千円</p>	
<p>販路開拓及び販売促進</p> <p>・展示会・商談会への参加 ・地域イベントへの出展</p>							
<p>組織の強化及び生産体制の効率化、省力化による低コスト化に向けた取組</p> <p>組合の株式会社化</p> <p>生産体制の効率化の検討</p> <p>設備導入の検討</p> <p>設備の導入</p>					<p>売上高 (H26年度: 11,744千円)</p>	<p>23,852千円</p>	
<p>商品開発及び改良</p> <p>商品の開発・テストマーケティング・商品の改良</p>							
<p>販路拡大及び販売促進</p> <p>商談会・展示会への出展、地域イベントへの出展、量販店等での試食販売</p> <p>パンフレット等の販売促進ツールの作成</p> <p>生産体制の強化・充実</p> <p>新たな生産施設整備の検討</p> <p>新たな生産施設整備</p> <p>6次産業化に向けた取組の検討</p>							

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
	<p>推進組織体制の構築</p> <p>公募選定</p> <p>事業計画の策定</p> <p>運営主体と地域事業者(団体)との連携</p> <p>拠点施設整備</p> <p>基本設計</p> <p>実施設計・工事施工</p> <p>開業</p> <p>事業効果を高める仕組みづくり</p> <p>集客の仕掛けづくり(コンセプトやイメージの発信ツールの作成及び磨き上げ 等)</p> <p>PDCAサイクルに基づく経営管理</p> <p>四万十市及び幡多地域の地場産品を活用した「食」「食文化」の発信</p> <p>運営会の開催による安定した集客及び経営並びに近隣商店街等への波及効果を増大させる仕組みの継続</p>					
	<p>地場産品総合販売ビジネス(ファンづくり)</p> <p>県アンテナショップの活用、通販、ネット販売の実施、県内外取扱店舗の拡大、「大月町ファンクラブ」の拡大、町内他事業者と連携した販路拡大</p> <p>町内事業者と連携した特産品開発生産ビジネス(ものづくり)</p> <p>大月町内事業者と連携した特産品開発</p>				ふれあいパーク大月 売上高 (H19:1.38億円) (H22:1.69億円) (H26:1.86億円)	2.5億円

第3期計画					H32以降	指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)		
販売促進 生産者等が連携した販促活動等の展開 どぶろくを使った加工品の開発及び販売 パンフレット作成・インターネット販売事業の構築 観光イベントや農家民宿と連携したPR・販売の実施					売上高 (H27:4,540千円)	8,630千円		
組織体制の強化 事業計画の作成 事業計画に基づく施設・設備等の整備 組織・販売体制の強化 人材の育成								
生産体制の充実・強化 事業計画の作成 施設・設備等の整備 生産体制の強化							売上高 (H26:32,850千円)	65,000千円
販売促進と商品開発 各種展示会・商談会等への参加 新商品の開発								
生産施設の拡大 製塩施設整備 結晶ハウス整備検討 結晶ハウス整備 体験施設の整備 体験施設の整備検討 ・体験専用の結晶ハウス整備 ・雨天時対策及びバリアフリー化					売上高 (H27:12,000千円)	23,000千円		
販路開拓・販売促進 各種商談会への参加 連携事業者との協働による商品開発 パンフレット及びポスターの作成 ホームページの作成								
担い手対策 製塩作業を実践しながら人材(担い手)の育成								

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
34 佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進事業 《黒潮町》	地元の魚介類や農産物を使ったレストラン、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光関連情報発信機能を有する道の駅「なぶら土佐佐賀」を中心として、地域食材の活用や地域の魅力の発掘・発信に取り組むことにより、地域の所得向上と交流人口の拡大を図る。	・(株)なぶら土佐佐賀 ・黒潮町	アクションプランの取組開始:H24 ・道の駅整備に向けて、道の駅設立準備委員会で施設内容や運営体制等を協議(設立:H21) ・道の駅の名称を町内公募(H25) ・道の駅の運営母体となる、(株)なぶら土佐佐賀を設立(H25) ・県産業振興総合補助金を活用し、道の駅「なぶら土佐佐賀」施設を整備、オープン(H26) ・幡多地域の東の玄関口として、観光客等からの問い合わせ等も多くあり、パンフレットやインフォメーションコーナーで対応している。	・運営力の強化 ・店舗の売上の向上 ・誘客の促進 ・来客者のニーズに応じた対応策の強化	◆組織体制の充実 ◆町内の類似施設と連携した商品開発・販売促進 ◆観光案内等機能充実・強化
35 幡多地域の資源を活用した水産加工品等販売促進事業 《黒潮町》	衛生・品質管理が行き届いた水産物加工施設を中心に、地産外商の取組を充実・強化することで、地域内の漁業者の所得向上、地域での雇用を拡大する。	・(有)土佐佐賀産直出荷組合	アクションプランの取組開始:H24 ・町単支援事業等を活用し、積極的な販促活動(H24～) ◆取引業者数が年々増加(H23:40社、H24:60社、H25:70社、H26:75社、H27:78社、H28:86社) ◆地場の魚の残渣も捨てずに使用する丁寧な商品開発へ力を入れ、ラインナップを増やしている。(新商品開発数=H23:3種、H24:1種、H25:5種) ◆H24、25、26と3年連続で、「むらおこし特産品コンテスト(全国商工会連合会)」審査員特別賞を受賞。 <受賞商品> H24:きびなごファイル H25:きびなごペースト H26:きびなご魚醬 ・加工施設整備(H26～27) ◆産振補助金を活用し、新加工施設を整備したことにより、品質管理や衛生管理等の向上に繋がった。 ・県版HACCP第3ステージを取得(H28)	・売上の向上 ・衛生管理面の充実	◆商品開発・販売促進 ◆スタッフ教育 ◆生産の担い手対策及び産地化に向けた体制づくり
36 地域資源を活かした防災関連商品推進事業 《黒潮町》	農水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制を構築し、「地産」「地消」「外商」を図ることで、雇用機会の創出はもちろん、地域生産者の所得向上につなげていく。	・黒潮町 ・(株)黒潮町缶詰製作所	アクションプランの取組開始:H21 ・加工商品の製造 ◆らっきょう漬けや黒糖商品(スタンドバック)等を開発し、百貨店等へ販売を実施。 ・黒潮町が出資主体となる(株)黒潮町缶詰製作所を設立(H25)黒潮町特産品開発推進協議会の事業を継承 ◆主力商品として防災関連部門では缶詰商品を、特産品部門では黒糖と天日塩商品に絞り込み、製造・販売を行っている。 ・加工施設整備(H25) ・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業を導入し、缶詰製造機械を拡充(H26) ◆こうちビジネスチャレンジプランにて「優良」を受賞(H26) ◆高知県防災関連製品として認定(H27) ・缶詰商品の開発及び販売開始(H26:5品、H27:6品、H28:10品、H29:4品) ・県版HACCP第3ステージ認証取得(H29)	・生産の効率化 ・商品アイテム数の増 ・自社販売等の増強など販路の拡大	◆施設・体制の充実強化 ◆商品開発・販路開拓

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>組織体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・人的体制の強化 					→	売上高 (H26: 118,658千円)	209,945千円
<p>町内の類似施設と連携した商品開発・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域食材を活用した特産品の開発と販促PR ・飲食施設提供メニューの開発と販促PR ・体験観光メニューの造成、磨き上げ 							
<p>観光案内等機能充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 町や轄多広域、町内関連施設等との連携・強化 							
<p>商品開発・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェブの活用・強化 既存販路の強化・拡大 					→	売上高 (H25: 73,085千円) (H26: 84,159千円)	130,310千円
<p>スタッフ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 県版HACCPの取得 スタッフのスキルアップ 							
<p>生産の担い手対策及び産地化に向けた体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の育成(雇用の継続)・新たな人材の雇用 原材料確保の安定化・買い支え 生産・加工技術の向上 魚食普及活動の推進 							
<p>施設・体制の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織体制の強化 県版HACCPの取得 施設整備等実施設計 施設・設備等整備 					→	売上高 (H26: 0.13億円)	1億円
<p>商品開発・販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品の開発 商談会・展示会への参加 							

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
商品造成・販売					→	入込客数 (H26: 1,274,622人)	1,296,000人
<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、地域の事業者と連携した商品や周遊プランの造成・販売 ・マーケット、ニーズの把握によるブラッシュアップ ・インバウンド向けの商品の造成 							
誘客促進の取組					→		
<ul style="list-style-type: none"> ・一般旅行: エージェントが企画、利用しやすいツールの作成及び事業者と連携したセールス活動 ・教育旅行: 民泊造成と連動した誘致 ・スポーツツーリズム: スポーツ大会、合宿等の誘致活動 ・インバウンド: 海外旅行会社へのセールス活動 							
組織体制強化					→		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域旅行会社としての機能強化 ・自主財源の確保に向けた取組の推進 ・広域エリア全体で体験メニュー実施者(ガイド・インストラクター)の育成 							
受入態勢の整備					→	入込客数 (H26: 4,600人)	8,470人
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ワンストップ窓口機能の整備・運用(幡多広域観光協議会・6市町村・観光協会等) 宿泊受入態勢の整備(旅館組合、集落活動センター等) スポーツ+体験観光をセットにした観光商品の造成・受入態勢の整備(幡多広域観光協議会、観光協会、集落活動センター等) </div> <div style="width: 45%; border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;"> 安定的な受入態勢の整備 </div> </div>							
施策等のPR・プロモーション活動					→		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> 関係団体と連携した誘致促進(高知県、高知県観光コンベンション協会、幡多広域観光協議会、市町村等) 誘致活動の展開(西日本・関東エリアへの誘致活動の展開) </div> <div style="width: 45%; border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;"> 人的繋がりを活かした誘致ネットワークの構築 </div> </div>							
地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ					→	観光商品数 (H26: 2件)	10件(累計)
<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;"> 「食」や「歴史」「自然」を活用した体験プログラムの造成・磨き上げ </div>							
誘客促進の取組					→		
<ul style="list-style-type: none"> ・「幡多広域観光振興計画」に基づく広域観光組織と連携した誘客促進の取組 ・スポーツフィッシングを中心とした誘客促進の取組 							
推進体制の強化					→		
<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;"> 県や市町村が行う人材育成制度等を活用した観光関係人材のスキルアップ </div>							

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
40 電車地域観光再生プロジェクト 《土佐清水市》	足摺宇和海国立公園ビジターセンターや、(株)スノーピーク監修による爪白キャンプ場の整備を行うとともに、サンゴ保全や地域資源を活用した観光商品づくりを行う地域団体との連携により電車地域が一体となって観光振興に取り組むことにより、地域の活性化を図る。	・土佐清水市 ・(一社)土佐清水市観光協会 ・NPO電車観光振興会 ・電車自然再生協議会	アクションプランの取組開始:H21 ・ギャップ調査(H22) ・観光資源の情報発信(H23) ◆H22ステップアップ事業を活用し、電車の観光資源の認知度と関心度のギャップ調査を実施。調査結果を基に、H23産業振興総合補助金を活用し、情報発信、認知度向上に取り組む入込客数の増加につながった。 ・イベント開催(H21~23) ・海のギャラリー運営管理(H22~23) ・はた博開催を契機として、体験プログラムを造成し、旅行商品として販売(H25~) ◆地元NPO電車観光振興会を中心に、新たな観光メニューづくり、清掃活動、サンゴ保全、イベント開催、地元小学校の学習活動支援等を行い誘客促進につながった。 ・足摺海洋館のリニューアルに合わせ、足摺海洋館を核とした、電車地域の活性化を検討(H26~)。 ・足摺海洋館基本計画設計アドバザリイ会議への参画	・地域や新たに整備される観光施設との連携	◆地域の特性、資源を活かした体験プログラムの造成・磨き上げ ◆サンゴの保護・育成への取組 ◆地域等と連携した観光施設の整備
41 土佐清水まるごと戦略観光展開事業 《土佐清水市》 ※地域産業クラスター関連(土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)	観光産業を地域の戦略的産業と位置づけ、体験型観光をはじめ、教育やスポーツ、国際観光等の誘客促進の強化と受入態勢の整備・充実に取り組むことで、滞在日数の延長や消費の拡大を図るとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組み、交流人口の拡大を図る。	・(一社)土佐清水市観光協会 ・土佐清水市	アクションプランの取組開始:H22 ・龍馬博・ふるさと博と連動した各種イベントの開催(H22~23) ・「はた博」をきっかけとした誘客促進に向けた体験プログラムの造成(H25) ・団体客誘客促進事業の実施(H27) ・土佐の観光創生塾への参加(H28) ◆「海の駅あしずり」に土佐清水市観光協会事務局を配置。ジョン万次郎資料館もリニューアルオープンし、異業種が連携したイベントの実施や体験型観光の受入の窓口となるなど、交流拠点として機能している。 ◆観光客の滞在時間延長に向けた取組として連泊客を対象として、体験商品券の進呈を行うなどにより、圏内での体験プログラムの利用促進に繋がった。	・観光客の減少 ・滞在日数延長のための取組 ・幡多広域全体での誘客促進	◆地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ ◆誘客促進の取組 ◆推進体制の強化

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
地域特性、資源を活かした体験プログラムの造成・磨き上げ					→	入込客数 (H22:12万人) (H26:9.5万人)	12.5万人
「食」や「歴史」「自然」を活用した体験プログラムの造成・磨き上げ							
サンゴの保護・育成への取組					→		
サンゴの保護・育成を中心とした自然再生・環境学習などの取組							
地域等と連携した観光施設の整備					→		
爪白キャンプ場 基本計画策定	爪白キャンプ場設計・施設整備						
新足摺海洋館施設整備等に係る意見交換・情報共有							
ビジターセンター等の観光施設の整備							
地域特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ					→	入込客数 (H22:86.9万人) (H26:69.3万人)	80万人
「食」や「歴史」「自然」を活用した体験プログラムの造成・磨き上げ							
誘客促進の取組					→		
・「幅多広域観光振興計画」に基づく広域観光協議会と連携した誘客促進の取組 ・インバウンド観光の推進							
推進体制の強化					→		
県や市町村が行う人材育成制度等を活用した観光関係人材のスキルアップ							

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
42 土佐清水ジオパーク推進事業 《土佐清水市》	足摺岬、竜串・見残し、唐人駄場など、日本でも貴重な地域の資源を活かして「日本ジオパーク」の認定に向けた取り組みを進めるとともに、地域資源の保全や環境教育等の普及により交流人口の拡大につなげる。	・土佐清水市 ・土佐清水ジオパーク推進協議会	アクションプランの取組開始:H26 ・市役所内にジオパーク推進係を設置(H26)、ジオパーク推進室を設置(H27) ・土佐清水ジオパーク推進準備会設立及び開催(H26) ・地質専門員の配置(H26) ・土佐清水ジオパーク推進協議会設立(H26) ◆庁内連携研修及び地域各地における講演会、勉強会、視察研修等を実施し、(H26～)認定に向けた取組内容等を学んだことで、参加者の意欲が向上した。 ◆日本ジオパークネットワーク関連の大会及び会合等へ参加し、(H26～)認定に向け関係者との人的繋がりができた。 ・市広報誌を活用した住民周知活動(H26～) ・土佐清水ジオパーク推進協議会の第1回総会を開催(H27) ・テーマ、キャッチコピー、ロゴマークの決定(H27) ・地域おこし協力隊の配置(H27) ◆推進室の設置や推進協議会の開催、専門員等の配置により、推進体制(組織)を構築することができた。 ・ジオガイドの育成(H28) ・認定見送りで指摘された課題への対応と再申請にむけた取り組み(H29)	・日本ジオパーク認定に向けた取組の強化 ・地域における推進体制の強化	◆日本ジオパーク認定に向けた取組の強化 ◆日本ジオパークの取組継続 ◆受入態勢の整備(ソフト) ◆受入環境の整備(ハード)
43 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光推進事業 《四万十市》	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通過型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも誘客できる通年型観光に取り組むことにより、宿泊者数の増加を図るとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組み、交流人口の拡大を図る。	・(一社)四万十市観光協会 ・四万十市	アクションプランの取組開始:H21 ・花まつりの通年化(H22～) ・二次交通の補強(H23～) ・食まつりとしてのイベント合同開催(H23～) ・自転車観光の推進(H24～) ・予土県境地域連携協議会でのサイクリングイベントの実施(H26～) ◆通過型観光からの脱却と閑散期(秋・冬)における集客増のため、秋に特化した宿泊を促すイベント開催にあたって、飲食店組合や旅館組合等との連携を強化したことにより、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。 ◆「四万十川周遊川バス」の運行や「しまんと・あしずり号」の運行支援を行うことにより、四万十市、土佐清水市を中心とした周遊及び滞在時間の延長に繋がった。 ・土佐の観光創生塾への参加(H28)	・滞在時間の延長に繋がる観光商品の造成や磨き上げ ・広域的な周遊観光に向けた取組	◆地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ ◆誘客促進の取組 ◆推進体制の強化
44 大月町自然体験・環境教育交流推進事業 《大月町》 ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化プロジェクト)	竜ヶ浜を中心とした大月町全体の周遊観光を推進するため、大月町観光協会の組織体制の強化を図るとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組み、交流人口の拡大を図る。	・大月町観光協会 ・大月町	アクションプランの取組開始:H21 ・基本計画策定(H22) ・施設整備(H23) ・教育旅行、一般旅行者の受け入れを実施(H24～) ◆H23産業振興総合補助金を活用し、キャンプ場(管理棟・炊事棟・駐車場・テントサイト等)を整備しH24.4より運営開始。(H27利用者:4,855人(対前年比2,210人増)) ・土佐の観光創生塾への参加(H28～29)	・関係団体や地域住民と連携した体験メニューづくり ・広域的な周遊観光に向けた取組 ・大月町観光協会の組織強化	◆地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ ◆誘客促進の取組 ◆推進体制の強化

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>日本ジオパーク認定に向けた取組の強化</p> <p>構想・計画策定申請書作成</p> <p>日本認定申請・現地審査</p> <p>認定ジオパーク視察研修・大会・会議への参加、パンフレット・HP・ガイドマップ・カイトフック等の情報発信ツールの作成など</p> <p>推進協議会の運営</p>					<p>ジオパークガイド登録者数 (H26:0人)</p> <p>ジオツアー年間参加者数 (H26:0人)</p>	30人	1,000人
<p>日本ジオパークの取組継続</p> <p>地域活性化のための取組、日本ジオパークネットワークとしての取組など</p> <p>推進協議会の継続運営</p>							
<p>受入態勢の整備(ソフト)</p> <p>勉強会・研究会等の継続開催(講師(専門家等)招聘)など</p> <p>ジオパークガイド養成</p> <p>ジオパークを活用したイベントの開催、ジオツーリズムの実施など</p>							
<p>受入環境の整備(ハード)</p> <p>拠点施設・ジオサイト・案内看板などの基盤整備等</p>							
<p>地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <p>「食」や「歴史」「自然」を活用した体験プログラムの造成・磨き上げ</p>					<p>入込客数 (H21:95.5万人) (H24:117万人) (H26:118.2万人)</p>	130万人	
<p>誘客促進の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福多広域観光振興計画」に基づく広域観光組織と連携した誘客促進の取組 ・四万十の食文化磨き上げの取組 ・滞在型の観光商品づくりの取組 ・観光商品のセールの取組 ・おもてなし環境の整備の取組 							
<p>推進体制の強化</p> <p>県や市町村が行う人材育成制度等を活用した観光関係人材のスキルアップ</p>							
<p>地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <p>「食」や「歴史」「自然」を活用した体験プログラムの造成・磨き上げ</p>					<p>入込客数 (H27:5.1万人)</p> <p>竜ヶ浜キャンプ場利用者数 (H26:4,334人)</p>	5.4万人	8,600人
<p>誘客促進の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福多広域観光振興計画」に基づく広域観光組織と連携した誘客促進の取組 ・開発した体験メニューを中心とした定期的なイベントや誘客に繋がるPR活動の実施 							
<p>推進体制の強化</p> <p>県や市町村が行う人材育成制度等を活用した観光関係人材のスキルアップ</p>							

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
45 三原村の魅力を活かした滞在型観光推進事業 《三原村》	豊かな自然環境のもと村内の農家民宿・農家レストランや濁酒特区の取組等を活かした滞在型・体験型観光を推進するとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組む、交流人口の拡大を図る。	・三原村商工会 ・三原村	アクションプランの取組開始：H21 ・三原村の魅力を活かした体験プログラムの造成、ブラッシュアップ（H21～） ◆どぶろく祭の定期開催による誘客促進が進み、リピーターの確保に繋がっている。 ◆教育旅行に係る民泊受入家庭数が拡大し、受入体制の強化が図られた。	・体験プログラムのブラッシュアップ ・広域的な周遊観光に向けた取組	◆地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ ◆誘客促進の取組 ◆推進体制の強化
46 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光推進事業 《黒潮町》	黒潮町の豊かな自然環境のほか、道の駅「なぶら土佐佐賀」や体験観光施設「黒潮一番館」などの観光資源を活かした体験型観光の推進や、防災プログラムを中心とした教育旅行の誘致に加えて、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組むことにより、交流人口の拡大を図る。	・NPO砂浜美術館 ・黒潮町	アクションプランの取組開始：H21 ・体験型観光の推進（H21～25） ・体験プログラムの開発、ブラッシュアップによる旅行商品化（H21～27） ・黒潮一番館の通年営業（H23～）や「もどりカツオ祭り等」の開催 ◆交流人口の実績 H23：16,148人→H26：909,514人 ・「はた博」をきっかけとした誘客促進に向けた体験プログラムの造成（H25） ・道の駅「なぶら土佐佐賀」のオープン（H26） ・防災プログラムの検討、磨き上げ（H26～） ◆「はた博」の開催や道の駅「なぶら土佐佐賀」のオープンにより、入込客数が伸び、幡多地域の玄関口としての機能を果たしている。 ◆「NPO砂浜美術館」や黒潮町が中心となり、体験プログラムの造成・ブラッシュアップやモニターツアーの実施を継続的に行い、誘客につながっている。 ・土佐の観光創生塾への参加（H28）	・体験プログラムのブラッシュアップ ・広域的な周遊観光に向けた取組	◆地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ ◆誘客促進の取組 ◆推進体制の強化
47 集落活動センターによる地域の産業振興 《三原村》	特産品の販売や交流人口の拡大、1次産業の振興等に地域で一体となって総合的に取り組み、地域の活性化を図る。	・三原村集落活動センター ・農事組合法人三原やまびこ	アクションプランの取組開始：H30		◆販売促進 ◆交流人口の拡大 ◆1次産業の振興

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <p>「食」や「歴史」「自然」を活用した体験プログラムの造成・磨き上げ</p>					→	入込客数 (H26:0.87万人)	1.08万人
<p>誘客促進の取組</p> <p>・「輪多広域観光振興計画」に基づく広域観光組織と連携した誘客促進の取組 ・ターゲットエリアの旅行エージェント等への販売活動の実施</p>							
<p>推進体制の強化</p> <p>県や市町村が行う人材育成制度等を活用した観光関係人材のスキルアップ</p>							
<p>地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <p>「食」や「歴史」「自然」を活用した体験プログラムの造成・磨き上げ</p>					→	入込客数 (H22:57.8万人) (H26:90.9万人)	99万人
<p>誘客促進の取組</p> <p>・「輪多広域観光振興計画」に基づく広域観光組織と連携した誘客促進の取組 ・スポーツツーリズムに体験型観光をセットにしたプランによる誘客促進の取組</p>							
<p>推進体制の強化</p> <p>県や市町村が行う人材育成制度等を活用した観光関係人材のスキルアップ</p>							
<p>販売促進</p> <p>販促活動等の展開</p> <p>地元農林産物を使った加工品の開発及び販売</p> <p>食品加工場の整備計画策定</p> <p>食品加工場の整備</p>					→	売上高 (H28:6,350千円)	21,000千円
<p>交流人口の拡大</p> <p>体験型観光の振興</p> <p>カフェの運営</p>							
<p>1次産業の振興</p> <p>三原米のブランド化と生産力の向上</p> <p>地域と連携した営農体制の構築</p> <p>乾燥・精米施設の整備計画策定</p> <p>乾燥・精米施設の整備</p>							
						体験プログラム利用者数 (H28:0名)	50人